

講演・発表内容 要旨

2024. 4. 11 版

ISLIS 主催 第 58 回生命情報科学シンポジウム 第 16 回合宿

開催日: 2024 年 8 月 2-5 日(金-月) 募集中: 講演・発表・実技指導・等

開催地: 富士山麓 朝霧高原: 富士宮市猪之頭 / 日月(ひげつ)倶楽部・富士山静養園

<理事長講演>

人財の結集を - ホリスティック医学・不思議の科学の拠点、
国際生命情報科学会(ISLIS)・国際総合研究機構(愛理 IRI)・
世界一の「潜在能力科学研究所」・「いやしのビル」へ

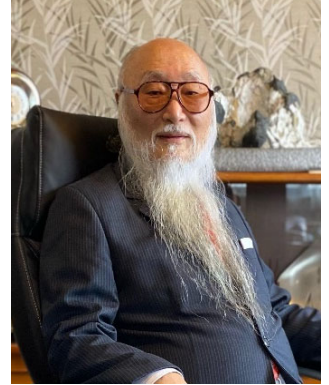
山本 幹男 博士(医学), 博士(工学)

(Mikio YAMAMOTO, Ph.D., Ph.D.)

国際生命情報科学会 (ISLIS) 理事長・編集委員長,

国際総合研究機構 (愛理 IRI) 理事長, 科学平和文化財団 (SPC-F) 理事長,

「潜在能力科学研究所」創立責任者, 「いやしのビル」企画委員長 (千葉, 日本)



要旨: 2024 年 8 月 2-5 日(金-月)に第 58 回生命情報科学シンポジウムを「富士山麓のトリートで命の循環を体験・体感する」一フェーズフリーのホリスティック医学とは一を主テーマとし, 主催 国際生命情報科学会 (ISLIS, イスリス, 帯津良一 会長, 帯津三敬病院 名誉院長), 共催 国際総合研究機構(愛理 IRI, アイリ)・科学平和文化財団 (SPC-F) で, 大会長 山本竜隆 ISLIS 理事, 朝霧高原診療所 院長の下, 富士山 朝霧高原の大会長の関連施設 日月(ひげつ)倶楽部・富士山静養園にて第 16 回の合宿として開催する. 地元関係者のご協力に感謝する.

次の第 59・60 回シンポは 2025 年春夏に ISLIS 創立 30 周年記念行事として開催予定で大会長など募集中. これらに多くの方の講演・発表・実技披露等応募と参加を望む.

ISLIS は, その兄弟組織でこの分野の幾多の研究成果を挙げてきた NPO-IRI/SPC-F・愛理 IRI と共に, IRI「潜在能力科学研究所」を創設し大型「いやしのビル」を建設し, ホリスティック医学・不思議の科学を含むこの分野の世界一の拠点に育てたい. 企画, 構想, 連携や 2024 年中に 100 名の人財を公募中で, 良い研究者や多方面の人材の推薦等で皆様のご協力を得たい. このために現本部にスペースを既に借増し, 小型ビルの建築確認済証も発行され, 超大型ビルを含む大型ビル 3 棟の企画設計もまとまった. ところが綺麗で有能な各種人財の結集を望んでおり, 自薦・他薦を期待している.

ISLIS の設立趣意は, 物質中心の科学技術から, ころろや精神を含んだ 21 世紀の科学技術へのパラダイム・シフト (枠組革新) を通じ, 真理の追究と共に, 人間の「潜在能力」の開花により, 健康, 福祉, 教育と社会および個人の幸福や心の豊かさを大きく増進させ, 自然と調和した平和な世界創りに寄与する事である.

ISLIS は 1995 年の創立来 28 年半, 現在の科学知識の延長で説明が出来そうも無い不思議なころろや精神を含んだスピリチュアル・ヒーリング, 気功, 潜在能力, 超心理現象などの存在の科学的実証とその原理の解明を追求して来た. この間に生命情報科学シンポジウムを, 海外での開催や 16 回の合宿形式を含め 58 回主催し, 英文と和訳付の国際学会誌 *Journal of International Society of Life Information Science* (J.Intl.Soc.Life Info.Sci. or *Journal of ISLIS*) を年 2 号刊行し, 総計 7,000 頁以上の学術論文と発表を掲載してきた.

この間に, 不思議現象の存在の科学的実証には多くの成果を挙げた. しかし, その原理の解明は世界的にもほとんど進んでいない. 今後共, これに大いに挑戦したい.

本学会は現在, 世界の 11 カ所に情報センターを, 15 カ国以上に会員を, 擁している.

キーワード: ホリスティック医学, 国際生命情報科学会, ISLIS, イスリス, 生命情報科学, 潜在能力科学, 国際総合研究機構, 愛理 IRI, アイリ, 科学平和文化財団, SPC-F, 科学, 精神, 脳, 心身, 代替医療, CAM, 統合医療, IM, 予防医学, 未病, 精神神経免疫, スピリチュアル, ヒーリング, 気功, ヨーガ, 瞑想, 潜在能力, 催眠, 心, 不思議, パラダイムシフト, 世界像, 世界観, 超常現象, 超心理, 超能力, 平和, 幸福

<会長講演>

地球の自然治癒力の回復は焦眉の急

帯津 良一

国際生命情報科学会 (ISLIS) 会長
日本ホリスティック医学協会 名誉会長
帯津三敬病院 名誉院長 (埼玉,日本)



要旨: 昨年の猛暑,元旦早々の能登半島の地震および世界各地の巨大地震,2年も続いているロシアのウクライナ侵略,イスラエルの攻撃によるガザ地区の悲惨など地球の自然治癒力の凋落振りには目を覆うものがある.地球の滅亡も絵空事ではなくなってきた.これを救うべきはまずは大ホリスティック医学の出番だ.自然界は大は虚空から小は素粒子まで,場の階層から成るという.そしてこの場の階層には,上の階層は下の階層を超えて含むという原理がはたらいているという.つまり全階層が一丸となって人間まるごとを形成しているのである.だから地球の自然治癒力を回復させるためには,生きとし生けるもの一人ひとりが,自らの内なる自然治癒力を高めながら,自らが身を置く場の自然治癒力を高めていけばよいのである.一人でも多くの人が丹田に力を込めて,このことに腐心していくことによって,地球の自然治癒力が回復し,地球は滅亡から救われるのである.

キーワード: 地球の自然治癒力,場の階層超えて含む,生と死の統合

連絡先: 帯津 良一 医療法人直心会 帯津三敬病院 名誉理事長 〒350-0021 埼玉県川越市大字大中居 545 番 Tel: 049-235-1981

<大会長講演>

第 58 回生命情報科学シンポジウム 2024. 8. 2-5 於 富士山麓(大会長関連施設)

「富士山麓のリトリートで命の循環を体験・体感する」

—フェーズフリーのホリスティック医学とは—

山本 竜隆

ISLIS 第 58 回生命情報科学シンポジウム 大会長・

国際生命情報科学会 (ISLIS) 理事,

朝霧高原診療所 院長、WELLNESS UNION (日月倶楽部・富士山静養園) 代表 (日本,静岡),

昭和大学医学部 客員教授, 日本ホリスティック医学協会 副会長



要旨: 伝統ある国際生命情報科学会 (ISLIS)主催の第 58 回生命情報科学シンポジウムの大会長を拝命し,2024 年 8 月 2-5 日(金-月)に,主テーマ「富士山麓のリトリートで命の循環を体験・体感する」—フェーズフリーのホリスティック医学とは—で,私を中心に設立し育てた下記施設にて合宿形式で開催する.

多くの方のご講演,発表,セミナー,実技披露などご参加を期待している.

私は,富士山麓の朝霧高原において,日月倶楽部・富士山静養園・朝霧高原診療所の 3 施設を柱に活動している.そこで,WELLNESS UNION の設立背景,この施設の沿革,活動内容,施設,今後の展開について,報告する.「下医は病気を治し,中医は人を治し,上医は社会を治す」という言葉に感銘を受け,医療からのアプローチで,小さな地域社会の安心安全,自然環境を活かした地域づくりを目指している.

近年では,リトリートという言葉も広く使用されるようになったが,平時の癒しのみならず,有事の避難所としての”場“があってこそ本当のリトリートであり,社会医学や公衆衛生などの観点でも,今後の日本においては重要な視点ではないかと考えている.また,これらの活動自体が,広義の統合医療やホリスティック医学に繋がると考えて,農業などとも連携した取り組みを進めている.私の恩師でもあるアンドルーワイル博士は”実学“を重視しており,現場での体験・体感をご提供できればと考えている.

キーワード: リトリート, 広義の統合医療, ホリスティック医学, 富士山, 朝霧高原

連絡先: Tatsu196691@piano.ocn.ne.jp

<講演>

ピラミッドパワーの科学的研究 (2007年10月~2024年8月) (Scientific Research on Pyramid Power: Studies from October 2007 to August 2024)

高木 治¹, 坂本 政道², 河野 貴美子¹, 山本 幹男¹
¹国際総合研究機構(IRI) (日本, 千葉)
²株式会社アクアヴィジョン・アカデミー (日本, 千葉)

要旨: 我々は2007年10月以来、ピラミッド型構造物(pyramidal structure: PS)の未知なるパワー (ピラミッドパワー) を実証するため、厳密に科学的な実験を続けている。実験ではバイオセンサ (キュウリ切片) を、PS 頂点と頂点から 8m 離れた較正基準点 (コントロール) に 30 分間置き、その後バイオセンサを密閉容器に移し、48 時間程度保管した後、容器内に放出された揮発成分 (ガス濃度) を測定した。我々が行ったピラミッドパワーの実験は、主に次に示す 2 種類の実験である。I) 「ピラミッドパワー実験 (PP 実験)」: PP 実験は、PS 自体が潜在的に持っている、いわゆるピラミッドパワーを検出する実験である。II) 「瞑想実験」: 瞑想実験は被験者が PS 内に入り瞑想 (ヘミシング) を行う実験であり、また瞑想中と比較するため、瞑想前と瞑想後の時間帯でも、PS 頂点にバイオセンサを置いて実験を行った。本講演は主に I) の PP 実験の結果について報告する。我々が PP 実験によって実証した内容は、主に次の 5 点である。1) PS のピラミッドパワーの存在を明らかにした (1%有意で実証: 夏期データ)。2) PS のピラミッドパワーが、PS 頂点に 2 段に重ねて置いたバイオセンサに対して、下段と上段で異なることを明らかにした (ピラミッド効果の大きさを示すサイ指数 Ψ が、下段のバイオセンサに対するサイ指数 Ψ は-3.01 でマイナスの値、上段に対するサイ指数 Ψ は 5.52 でプラスの値となり、下段と上段で有意差を得た。 $p=4.0 \times 10^{-7}$)。3) PS の潜在力の詳細な解析の結果、バイオセンサ間の絡み合い (Bio-Entanglement) と考えられる現象を明らかにした。4) PS のピラミッドパワーは季節変化をしないこと、また Bio-Entanglement の効果は季節変化をすることを明らかにした。5) PS のピラミッドパワーが、バイオセンサの特性であるガス濃度の概日リズムの位相に影響を与えることを明らかにした。ピラミッドパワーに関する研究は、未だアカデミズムの世界では異端と見做されることが多い中、我々の実験結果は、この分野において世界初の研究成果である。今後この成果が一般に広く認められ、科学における新たな研究分野となり、幅広い応用の可能性が期待される。

キーワード: ピラミッド, 潜在力, 瞑想, ヘミシング, バイオセンサ, キュウリ, ガス, サイ指数, Bio-Entanglement

代表著者連絡先: 〒263-0051 千葉県稲毛区園生町 1108-2 ユウキビル 4FA 電話 043-255-5482 電子メール: takagi@a-iri.org

参考文献

Takagi, O., Sakamoto, M., Yoichi, H., Kawano, K. and Yamamoto, M. (2020) Scientific Elucidation of Pyramid Power: I. Journal of International Society of Life Information Science, 38, 130-145. https://doi.org/10.18936/islis.38.2_130

<研究発表>

バイオセンサの概日リズムと睡眠状態 (Biosensor's circadian rhythm and sleep state)

高木 治¹, 坂本 政道², 河野 貴美子¹, 山本 幹男¹
¹国際総合研究機構(IRI) (日本, 千葉)
²株式会社アクアヴィジョン・アカデミー (日本, 千葉)

要旨: 我々はピラミッド型構造物(pyramidal structure: PS)の未知なるパワー (ピラミッドパワー) の研究を、2007年10月から続けている。そしてバイオセンサ (食用キュウリ切片) を使用した厳密に科学的な実験によってピラミッドパワーの存在を実証してきた。また、バイオセンサから放出されたガス濃度の解析によって、バイオセンサの特性も明らかにしてきた。その結果、バイオセンサから放出されたガス濃度の概日リズムが、季節によって変化することが分かった。つまり 1 日の内で、ガス生成反応の活発化や不活発化する時間帯が周期的に繰り返されるが、その周期が季節によって変わることが明らかとなった。概日リズムの一周期は、冬では 8 時間、春では 6 時間、夏では 24 時間、秋では 12 時間と 24 時間の混合リズムであることが判明した。また、同じ 1 周期が 24 時間の概日リズムをもつ夏と秋とでは、概日リズムの位相が 4 時間程度ずれていた。このことから、概日リズムの周期は同じであっても季節の変化によって位相が変化することが判明した。睡眠に関しては、これまで脳を持っている動物しか眠らない、という説が一般的であったが、最近脳を持たないクラゲも眠っていることが報告されている。クラゲの傘の開閉運動を昼と夜で比較し、夜の運動が昼に比べて緩慢になることを明らかにした結果である。そこで我々は、クラゲ同様、脳を持たない植物 (キュウリ) に関して、周期

的に変化する概日リズムとは別に、年間を通してガス濃度が少なくなる時間帯があるかどうかを解析した。季節によって概日リズムの周期が異なることから、概日リズムの位相は当然ばらばらであった。しかし午前 2:00 頃に、ガス濃度の位相が全て谷の部分（極小値）となることを見出した。従って我々は、バイオセンサは、季節変化する概日リズムを持つ一方、季節に関係なく年間を通して午前 2:00 頃にガス生成反応が極端に減少する時間帯があると理解した。そして日本のことわざ、「草木も眠る丑三つ時」とあるように、キュウリが午前 2:00 頃に、睡眠状態にあると結論した。

キーワード：バイオセンサ,キュウリ,概日リズム,ガス,睡眠キーワード：バイオセンサ,キュウリ,概日リズム,ガス

代表著者連絡先：〒263-0051 千葉市稲毛区園生町 1108-2 ユウキビル 4FA 電話 043-255-5482 電子メール：takagi@a-iri.org

参考文献

[1] Takagi, O., Sakamoto, M., Yoichi, H., Kokubo, H., Kawano, K. and Yamamoto, M. (2018) Discovery of Seasonal Dependence of Bio-Reaction Rhythm with Cucumbers. International Journal of Science and Research Methodology, 9, 163-175.

<https://www.researchgate.net/publication/331917254>

[2] Takagi, O., Sakamoto, M., Yoichi, H., Kokubo, H., Kawano, K. and Yamamoto, M. (2018) Relationship between Gas Concentration Emitted from Cut Cucumber Cross Sections and Growth Axis. International Journal of Science and Research Methodology, 9, 153-167.

<https://www.researchgate.net/publication/331917255>

[3] Takagi, O., Sakamoto, M., Kawano, K. and Yamamoto, M. (2022) Seasonal Changes in the Circadian Rhythm of Gas Released from Harvested Cucumbers. Natural Science, 14, 503-516.

<https://doi.org/10.4236/ns.2022.1411045>

<講演>

米国の宇宙生命研究の最前線、情報開示が示唆する 人類の起源、生命、意識の再定義

エリコ ロウ

マインドフル・プラネット・コミュニケーションズ (米国、シアトル)



要旨：人類が宇宙で唯一の知的生命体ではないことは否めない事実とみられるようになりました。実際に関与してきた政府や軍の高官、企業幹部などによる内部告発で、人類よりもはるかに進化した異星人が多種類存在し、外交や技術供与も行われてきた証拠が蓄積したからです。人類は異星人による遺伝子改造の産物だと公言する元 CIA アナリストや有名大学の教授たちも出てきたのです。

こうしたことから米国では議会も動き出し、国内政治をめぐる対立を深めるなかでは奇跡的といわれる超党派のプッシュにより、過去 70 年以上にわたり政府や軍、軍需ハイテク企業が隠蔽し続けてきた異星人との接触や異星人由来の技術開発の情報開示義務も法律として制定されました。

科学の常識、国際政治、法律、科学、文化、宗教はもちろんのこと、人間という存在自体の定義も大きく変わろうとしているなか、米国には宇宙時代の人類を導く人材教育として ET 研究学の修士号、博士号コースを発足させた大学もあります。その主任教授が、情報開示の法制化に実現に尽力したのがペンタゴンペーパーやイランコントラ事件での情報開示などでも名を馳せた国民の知る権利擁護の旗手で憲法学者ダニエル・シーハン弁護士であることから、地球にコペルニクス的展開以上の転機が来たことがわかります。

その一方では、地球の自然環境が悪化を加速させるなか、宇宙船の目撃、ライトランゲージ、テレパシー、ルーシッド・ドリーム、チャネリングなどを通して異星人や異次元の存在や、その正体は地球の先住民である多次元生命体とみられるサスクワッチ（ビッグフット）からメッセージを受け取れる、とする民間人も急増。人類の起源や宇宙の歴史、人類への警告、未来予言などの情報も氾濫し、真偽の判断も大きな課題となっています。

本プレゼンテーションでは、在米ジャーナリストで、潜在能力開発のインストラクター、ユビキティー大学 ET 研究学博士号候補生でもあるエリコ・ロウが、米国における最新の宇宙生命研究、リバース・エンジニアリング、情報開示が示唆する新たなホモ・サピエンス論、人類の進化の可能性について解説します。